

令和2年度
大地の会 事業活動報告書



社会福祉法人 大地の会

〈令和2年度を振り返って〉

令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、日毎に感染者が増加し、各地でクラスターが発生するなど私たちも日々感染対策やご利用者や職員など健康管理をしながら、「発生させてはいけない」という緊張やもし、コロナウィルスに感染してしまったらという不安が常にあるような1年でした。

ご利用者・ご家族の不安もあり、特に在宅サービスについては感染のリスクを考えご利用を控える方もいらっしゃるなどサービスのあり方を考えさせられる1年でありました。また、施設内でのコロナウィルスの感染者が発生するなど対応もありましたが、施設内での感染者発生時の対策をあらかじめ予期出来たことや速やかに保健所などの相談や指導を受けることが出来たことなど、各関係部署への相談などがスムーズに行うことが出来ました。

まだ、予断を許さない状況ですが日々感染対策を継続し、まず発生させないこと、万が一感染者が発生した場合には速やかに隔離対策などが講じられるように準備をしております。

今年度は介護報酬改定の年にあたり、コロナウィルス感染症や大規模災害への対応、住み慣れた地域で医療・介護のサービスが切れ間なく提供されることを目指した地域包括ケアシステムの推進、リハビリテーション、口腔ケア・栄養ケアなど自立支援や重度化防止の取り組み、その他人材確保や制度の持続性確保などのテーマが掲げられています。機能訓練や口腔ケア、栄養ケアのさらなる充実を図ることでケアの質の拡充とそれを評価する加算がセットになっています。私たちもサービスの充実を図り、ご利用者にとってより良いサービスにつながるよう取り組んでまいります。また、今回の大きなテーマは「科学的介護」の取り組みです。事業所のご利用者のデータを「LIFE」と呼ばれるシステムに情報を提出し、そのフィードバックを基にケアの質の向上への取り組みに生かす取り組みです。始まったばかりで、運用に時間がかかるのではとされていますが私たちも早々に「LIFE」への取り組みをしていきたいと思っております。

コロナ禍のサービスを行う中で経済的な事情、ご家族のことなど様々な事情でご相談を受けることがあります。私たちのサービスの中で支援できることも含め、必要に応じてふさわしい機関をご紹介しますなど少しでも困られている方々のお力になれたらと思います。今までの経験や知識を生かしながら、この地域のために貢献できるように努めます。

昨年度は運営状況も、私たちの生活もコロナウィルス影響で大きく、制限されることとなりました。目に見えないウィルスに私たちが感染してしまったらという不安と戦う日々が続いています。新年度に入り、ワクチン接種が急速に始まり、ご利用者と私たち職員の接種も始まったところです。ワクチン接種が広がり、コロナウィルスの収束を切に願っています。ご利用者の安心・安全と同時に私たち自身を守るために、感染症対策に努め、法人運営をしてまいります。

社会福祉法人 大地の会

理事長 佐々木 美保

〈令和２年度 社会福祉法人大地の会 会議運営状況実績〉

【理事会開催状況】

第１回理事会 令和２年６月１０日（水）書面議決

〈審議内容〉

- 第１号議案 令和元年度 大地の会 事業報告の承認について
- 第２号議案 令和元年度 大地の会 決算報告の承認について
- 第３号議案 令和元年度 大地の会 監事監査報告について
- 第４号議案 令和元年度 大地の会 社会福祉充実残額の報告について
- 第５号議案 令和元年度 指導監査結果改善報告について
- 第６号議案 給与規程の改正について
- 第７号議案 定時評議員会の招集及び付議案件について

第２回理事会 令和２年１０月２５日（日）書面議決

〈審議内容〉

- 第１号議案 井戸の設置・地下水浄化装置契約について

第３回理事会 令和２年１２月２８日（月）書面議決

〈審議内容〉

- 第１号議案 理事の選任について
- 第２号議案 就業規則の変更について
- 第３号議案 準職員就業規則の変更について
- 第４号議案 給与規程の変更について
- 第５号議案 次回評議員会の招集及び付議案件について

第４回理事会 令和３年３月２０日（土）書面議決

〈審議内容〉

- 第１号議案 社会福祉法人大地の会 令和２年度収支予算書の補正について（資料１）
- 第２号議案 社会福祉法人大地の会 令和３年度事業計画（案）について（資料２）
- 第３号議案 社会福祉法人大地の会 令和３年度収支予算書（案）について（資料３）
- 第４号議案 借入金の連帯保証人の変更について
- 第５号議案 次回評議員会の招集及び付議案件について

【評議員会開催状況】

第1回評議員会 令和2年6月25日(木)書面議決

〈審議内容〉

第1号議案 令和元年度 決算報告について

第2号議案 令和元年度 監事監査報告について

第2回評議員会 令和3年1月22日(金)書面議決

〈審議事項〉

第1号議案 理事の選任について

第3回評議員会 令和3年3月29日(月)書面議決

〈審議事項〉

第3号議案 令和2年度 収支予算書の補正について

第4号議案 令和3年度 事業計画案について

第5号議案 令和3年度 収支予算書案について

令和2年度
塩田ホーム事業活動報告書



社会福祉法人 大地の会

＜社会福祉法人大地の会塩田ホーム 令和2年度の主な取り組みの成果＞

1. ご利用者に喜ばれる質の高いサービスの提供

『ご利用者一人一人に合わせたケアを目指します』

『専門職としてその力を発揮し、それぞれの分野からご利用者にあったサポートを行います』

『最期のときまで安心してその方らしい生活の支援を行います』

2. 地域との共助と協働

『地域のためにできることを』

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

『長く働く職場づくり』

【各サービスの活動成果】

〔特養〕

令和2年度は退所される方も多かったこと、コロナウィルス感染拡大の影響を受けて、ご入所までに時間がかかるなど稼働率にも大きく影響を受けることになりました。

次年度に向けて、次点の入所待機の方については早めにお声がけをしておき、スムーズに入所のご案内も出来るようにご家族や病院など細やかに連絡をしていきます。

- ・ユニット稼働率 90.4%（前年度 95.0%）
- ・従来型稼働率 90.6%（前年度 92.9%）
- ・特養全体稼働率 90.5%（前年度 93.9%）

〔短期入所〕

令和2年度は特養同様にコロナウィルスの影響で、感染の心配からご利用を控える方やご利用の際に体調のチェックなどをより厳密に行いその結果、ご利用控えやキャンセルなども多くあった年でした。12月末の自施設での発生もあり、一時的に受け入れストップを行うなどもありました。

- ・ショートステイユニット稼働率 68.1%（前年度 79.2%）
- ・従来型稼働率 87.6%（前年度 77.0%）
- ・ショート全体稼働率 77.8%（前年度 78.1%）

〔通所介護〕

通所介護においても、感染対策を強化しながら営業を行いました。特にご家族からの施設への感染対策の状況を気にされる方も多く、時間毎、営業後の施設・送迎車両の消毒に加え、職員1人1人がかからない・うつさないを心掛けました。

- ・デイサービス稼働率 79.6%（前年度 83.0%）

〔訪問介護・障害福祉〕

訪問介護は新規の利用者がほとんどいらっしゃらない中で、コロナ禍での利用控えがあるなどの影響がありました。

障害福祉サービスは堅調にご利用者が増えました。計画相談・居宅介護の他、行動援護や移動支援などサービスのメニューを増やし、今後ご利用者の増加、増回となるように努めます。

- ・訪問介護・障害福祉稼働時間数 256 時間/月平均
- ・訪問介護登録者数 33.3 人月平均（前年度 28.7 人/月平均）
- ・障害福祉登録者数 15.79 人月平均（前年度 13.4 人/月平均）
- ・計画相談受け持ち人数 71.1 人月平均（前年度 43.4 人/月平均）
- ・移動支援利用者数 6.9 人月平均（前年度 9.1 人/月平均）

〔居宅介護支援事業所〕

コロナウィルス感染防止のため、以前のように対面での訪問やサービス担当者会議ではない、電話やオンラインでの会議など業務方法が大きく変化しました。現在も直接訪問をして、ご利用者やご家族などお話を伺うことが出来ませんが、オンラインを活用して細やかに情報の聞き取りをするなどを今後も行っていきます。

- ・担当件数 126 件/月平均（前年度 139 件/月平均）

【専門職としての研鑽】

令和2年度は内部研修については、少人数に分けるなど感染対策を行いながら、実施しました。外部研修については例年に比べて、参加者・回数ともに少なくなりましたがテーマ毎や職員毎に参加したい研修について選定し、参加をしました。

・施設内研修

実施日	内容	参加部署
6/15・29・30 7/11 8/26	身体拘束『高齢者虐待・権利擁護』	介護・医務
5/9・18・24・25・27・29 6/18	法令遵守『人格の尊重とは』	介護・医務
6/18・19	感染対策『食中毒について』	介護・医務・栄養
6/15	身体拘束『これって身体拘束？』	介護・医務
10/17	事故対策『夜間帯急変時対応』	介護
10/28	接遇・倫理『接遇マナーと・倫理』	介護
11/6	福祉用具『移乗用ボード等使い方』	介護・機能訓練
11/24・26	『認知症の種類・症状と事例検討』	介護
11/24・26	個人情報『施設利用時の確認事項と事例検討』	介護・相談

・施設外研修

実施日	内容	参加者
9/17 10/1 10/23	かながわライフサポート事業	訪問
12/1	介護支援専門員 専門研修Ⅱ	居宅
10/2	認知症ケアの基礎	介護
2/3	ユニットケアフォローアップ研修	介護

【地域交流・貢献活動】

コロナ禍において、地域の方々と対面でお会いする機会が少なくなり例年開催していました納涼祭・文化祭・餅つきなどの行事はすべてご利用者のために開催しました。その他、地域懇談会や家族交流会なども今年度開催することができませんでしたが、今後こういった活動をどのような形にしていくかが課題になります。

【最後の時まで安心してその方らしい生活の支援を行います】

コロナ禍で、対面での面会を控えていただくなどご利用者のご家族になかなか会うことのできない1年でした。電話やリモートでの面会もご要望に合わせて行いました。ワクチン接種が進み、早くご家族との面会が再開できることを願っています。こうした生活での「楽しみ」が限られてはいますが、感染対策を十分にしながら小さなレクリエーションを行うなど、少しでもご利用者の「楽しみ」になるように工夫をしました。

【長く働ける職場づくり】

子育てや介護、ご本人の体調コントロールのために時間や業務を限定して働くことが出来る制度『限定正職員制度』を利用している職員が3名（継続）、また職員1名が育児休暇を取得しています。育児休暇の実績は、今まで女性だけですが今後は男性の取得希望者も出てくるかもしれません。家庭と仕事の両立や働き方のサポートを今後も行ってまいります。障害者の方の雇用は、今年度1名採用することが出来ました。引き続き、業務分担など見直しを行い、業務を担ってくださる障害者の方の雇用を行ってまいります。

【多様な人材の受け入れ】

塩田ホームではすでに2名のベトナムからの技能実習生の受け入れを行っていますが、令和2年度もさらに2名の技能実習生の受け入れを行いました。中にはさらに上位の日本語試験を目指す実習生や技能実習の3年が終了した後の働き方についても相談があるなど、4名ともとても意欲の高い実習生です。引き続き、日本語と介護技術の習得のサポートを行ってまいります。

【人材育成と人事評価】

『大地の会キャリアパス制度』に基づいて年に2回の人事評価を行いました。特定処遇改善手当や賞与などに連動、各部門ごとに評価を行いました。また、今年は研修計が思うように進められませんでした。次年度は工夫をしながら「キャリアアップ・スキルアップ研修」や上位資格取得のためのサポートを行ってまいります。

部署別活動報告

〈令和２年度 部署別活動報告〉

【相談援助部門】

令和２年度 活動の成果

・相談援助部門における支援向上について

- ① 部門研修・部門会議…コロナウィルス感染拡大の影響で、研修の参加機会がありませんでした。

ゆっくり時間をかけた会議はできませんでしたが、入所やご利用者の変化に応じてカンファレンスなどは細かに開催しました。

- ② 公益的な取り組み…地域の方をお招きするような行事やボランティアの方には感染防止のためにご遠慮いただいたため、令和２年度の公益的な取り組みは出来ませんでした。
- ③ 勤務体制…生活相談員が２人体制となりました。不慣れなこともあり、業務時間がかかるなど課題が残る１年となりました。来年度は業務効率化を目指し、時間外勤務時間の削減を行います。

・生活相談員独自の支援向上について

- ① 稼働率・丁寧な説明力…コロナウィルス感染拡大、また自施設での発生もあって稼働率に大きく影響がありました。また、ご入所にあたって、面談に伺うことが出来ないなど速やかにご案内が出来ず空床になってしまう期間が長くなってしまうこともありました。来年度は感染対策も継続しながら、空床に対しても速やかに対応できるように準備をしております。
- ② 他部署職員との連携…介護・医療・栄養・機能訓練などご利用者様のサービスは多岐に渡り、協働協力・情報共有は必須です。ご利用者に細やかに対応できるように心がけました。
- ③ 相談員部会・外部研修の参加…コロナウィルス感染拡大の影響もあり、参加の機会がありませんでした。

【ユニット型特養部門～新館～】

【令和2年度活動の成果】

【会議】

役職者会議は毎月開催し、新しいユニット体制を検討実施していききました。また、24Hシートへの取

り組みを行う上で各ユニット話し合いを深めました。

ユニット会議は感染対策もあり毎月の開催は困難となりましたが、各ユニット必要時に開催をしました。

【職員教育】

・ユニットケアへの進め方や考え方は24Hシートを実際に作成することでユニットごとに話し合いを

深めました。常に入居者目線を忘れずにリーダーが各ユニットで発信を行いました。

【行事・レクリエーション】

・感染対策の為外出が困難となりましたが、施設内で売店を開き、入居者の望むものを購入して頂く

事が出来ました。各ユニットではレクリエーションを企画し実行、個別性を高めるレクリエーションを

考え実行することもできたユニットもありました。

【新館独自の計画】

①個別ケアへの取り組み。入居者のご希望に沿ったケアの提供を行う。マンツーマン入浴の実施、協働入浴を廃止し、各ユニットまたは協力ユニットで完結する事へ移行出来ました。

②勤務体制の変更。8時間夜勤へ移行することで日勤の人数が増え手厚いケアの提供、夕食後のゆっくりとした時間の過ごし方等、コミュニケーションを多くとることが出来、入居者の満足度が上がりました。

③ユニット会議、リーダー会議の日中開催。夜開催の会議から他ユニットの協力のもと日中開催へ

移行しました。

【従来型特養～本館～】

令和2年度 活動の成果

【グループ活動について】

今年度から利用者様一人ひとりに合わせた個別ケアの推進を目標に、各グループごとの活動に重点を置いて活動を行なった。会議も、それに合わせグループごとの開催となり、職員各々の意見を発言する機会も増え、それを日々のケアやレク活動に活かすことができた。レク活動もグループごとになったため、そのグループのご利用者様の嗜好や特性を考えることで、職員の独りよがりにならない、利用者様が本当に喜んで下さるレクを提供することができた。また、本館の特徴の、大きな集団であることを活かすことも大事にし、数カ月には一度はハロウィン運動会やクリスマス会などの大規模な合同レクを行なった。みんなが声をあげ、盛り上がるができるのは集団の強みであるためこれからも大事にしていきたい。

【職員に対して】

不安なことや仕事の事に悩みがある職員に対して、リーダー以上の職員が個別に面談を行い問題に対応することが出来た。

【コロナ禍の対応について】

コロナ禍であることから外の外出の機会が大きく減り、家族と顔を合わせる機会も少なくなってしまった。それに合わせ、施設内での調理レクを増やしたり、利用者様の写真と手紙をご家族へ送るなどの活動を行うことができた。また、12月には本館2階で、利用者様から1名コロナ陽性者が出て、2次感染予防のための体制をとることになった。職員への負担も増える中、一人一人が何ができるのかを考えながら対応にあたることができた。そのかいもあり、その後の感染者も出ず対応を解除することができた。

【情報共有に関して】

ご利用者さまに統一したケアを提供するために、業務におけるルールを調整する、利用者様ごとの個別の対応を共有できるようにした。具体的にはスラックやグループ会議での時間を使い共有を図った。

【短期入所部門】

【令和2年度活動の成果】

【部署目標】

初心・基本を忘れず、ご利用者様の心情に寄り添い、安心できるようチームで取り組むために、職員一人一人のプロ意識を向上する。

2年間に渡る目標でしたが、介護の基本・ご利用者のペース合わせ、安心して頂けるよう取り組んできました。

対応が難しいご利用者様も多くチームで観察・意見交換し、アプローチの仕方を考え実践してきました。

【会議】

月1回モモ・モクレン合同で行い、内容として新規のご利用者様や、レギュラーでご利用されているご利用者

様について、ご家族の要望やクレーム。日々状態に合わせた対応やご利用目的について、医務や相談員、他部署の参加もあり、今後も連携を取っていきたいと思います。

【レクリエーション】

コロナ禍の中、ご利用者様に季節に合ったおやつや、ご利用者様のリクエストに対応し職員の得意分野を活かし、多くのレクリエーションができたと思います。

【栄養部門】

令和2年度 活動の成果

【栄養ケアマネジメントについて】

- ・本館の入所者と新館の入居者全員を対象に、事前情報や健康診断書、毎月の体重測定、食事摂取量、水分摂取量、血液検査等を資料として栄養状態の評価を行い、定期的に経過観察を行っている。また、関連職種とも随時相談をしながら適切な栄養管理に努めている。

【職員研修について】

- ・入職時の介護職員研修を行っている。内容は、手洗いの方法・衛生管理について。特に手洗いについては感染症予防の基本であり、石鹸を使う意味や2度洗いの必要性についても説明をしている。

【給食会議】

- ・毎月定期的に開催した。積極的な意見交換ができており、課題や問題解決にも繋がっている。

【報告書の作成】

- ・1月「給食施設栄養管理報告書」の作成と、相模原市への提出を行った。

【食事摂取基準について】

- ・4月と8月の2回、食事摂取基準の見直しを行った。今後も年1回は全面的に見直すことにより安全で美味しい食事作りの指針としたい。

【感染防止委員会の勉強会について】

- ・6月に夏の勉強会「食中毒について」を開催した。時節柄、密を避けるために、1回は新館パブリックに集まり従来通りの形式で、2回目はPC内の「共有伝言板」に資料を入れ、各自で勉強をした。「新型コロナウイルス」による「細菌」や「ウイルス」への関心が高まり、多数の参加者があった。

【ゼリー食について】

- ・8月から新しい食種「ゼリー食」を開始した。現在も数名提供をしている。

【嗜好調査】

- ・10月には本館入所者と新館入居者への嗜好調査を実施した。より良い食事作りをするための参考資料としている。

【栄養補助食品と水分補給食品について】

- ・数種類使用していた栄養補助食品についての評価を行い、現在は「FCエプリッチゼリー」1種類のみとしている。
- ・適正な水分摂取量を確保するために「イオンサポートゼリー」「イオンサポートゼリー お

茶ゼリー」「ラクーナパウダー」の3種類を在庫管理している。通常は厨房から提供をしているが、事情によっては各フロア・ユニットで調理をする等、水分摂取の重要性を認識できるようになったと

考えている。また、無駄を無くすために、提供量は「0.5ℓ」を最小単位としている。

【経管栄養剤について】

- ・効率的な在庫管理と適正な食材費を維持するために「メイバランス HP 1.0 Z パック

300 ml」と「アイソカル BAG 2K 250 ml」の2種類を選定した。

【給食管理業務】

- ・(株)セプト様作成の監査書類と帳票類の確認・保管・指導を行っている。

【医務部門】

令和２年度 活動の成果

職員指導

- ①職員の入職に合わせ、オリエンテーションや研修を行い、特養の医務室の業務内容やその根拠を指導した。
- ②各担当委員会に関連した外部研修に参加し、情報を研修に生かした。

利用者健康管理・リハビリ

- ①体調変化については他部署と情報の共有を行い、受診や嘱託医の指示確認を行った。また、急変に伴う救急搬送に対応した。
- ②健康診断を実施し、結果については ADL 会議の場で家族にも説明し、健康管理につながるよう医師とも連携を図った。
- ③生活リハを中心に、ポジショニングやリハビリの計画に沿って指導・助言した。
- ④緊急ショートは、高度な医療を必要とするケース以外は受け入れ、体調の変化観察と医療ケアを実施した。

設備管理

- ①医療材料の個数管理を実施した。
 - ②医療器具の管理を行い、看護師以外が使う器具については、使用方法を指導した。
- ① 人員配置の調整をおこなった。
- その他
- ①委員会やケア担当、内服管理など業務分担をし、ケアの質を保つよう努めた。
 - ②看取り対応となるケースの方針やカンファレンス内容を共有し、他職種とも情報共有した。
 - ③記録の電子化を実施し、全員が記録の確認が行えるようにした。
 - ④ 物品の管理方法を改善し、過不足なく発注できるようにした。

【デイサービスセンター】

令和2年度 活動の成果

【ケアサービスの向上】

今年度はコロナ禍もあり予定していた行事が出来なかった事が多く感染予防を徹底し今出来るサービスを皆で考えた1年でした。

【職員教育】

今年度は職員が認知リーダー研修に参加したこともあり、認知症研修を中心に行い、コンプライアンスに沿ってその他の研修も行いました。

【コスト削減】

カラーコピーに変わる折り紙や段ボール、模造紙などを使って削減に取り組みました。物品の取り扱いも過ぎたストックをしない事を心がけました。会議では

【独自の行動計画】

地域介護の窓口となれるように介護サービスの知識、技術を高め安定した稼働を今後も継続出来る様努力します。

【(介護予防) 訪問介護事業】

【障害福祉サービス 居宅介護事業】

令和2年度 活動の成果

- ・サービス提供責任者が3名になり、情報の交換・共有に努めようと努力したが、話し合いの時間が少なく、なかなか共通の視点でサービスを提供することができなかったが、ケアウイングソフト導入により、リアルタイムで情報共有ができるようになった。
- ・新型コロナでの緊急事態宣言に伴い、数名の利用が休止になった。また、感染予防に努め、対応した。
- ・介護保険サービス利用者が横ばいの状況だが、障害サービス利用者が増えた。
- ・急なサービスの利用相談にも、できる範囲で対応した。
- ・福祉有償運送では、事故無くサービスができた。
- ・できる限り職員で協力しながら利用者数を増やせるように努力した。
- ・たくさんの課題に、訪問チームとして少しずつ前向きに取り組むことができている。

【障害福祉サービス 計画相談支援】

令和2年度 活動の成果

- ・障害サービスの相談も増え、サービス利用に繋がっている。
利用者が困ることなく生活するために、障害サービスから介護保険サービスに併用または移行ができるように相談やサービスに努めている。
- ・近隣に障害グループホームができたことや、他事業所から引き継いだことで利用者数が増えた。
利用者やサービス事業者からの相談などに、その都度対応した。他職種との連携に努めた。

【居宅介護支援事業所】

令和２年度 活動の結果

- ・ケアマネの増減はなく、引き続き４名で業務に当たっている。
- ・新型コロナウイルスの影響により、これまで行ってきた通常の業務（定期訪問、サービス担当者会議、研修、交流会など）が軒並み中止、または変則的な実施となった。中には ZOOM などを使った物もあり、当初は戸惑いもあったが徐々に態勢が整ってきている。
- ・来年度もコロナウイルスに大きく影響を受けながらの業務になることが予想される。これまで同様、ご利用者のニーズに即したケアプランが提供できるよう検討を重ねていく。
- ・ケアマネの更新時期の延期（約２年）の措置があった。更新研修自体も形態を変更しながら再開の情報が入りつつある。
- ・今年度は介護支援専門員の実習生の研修自体がなかった。

委員会活動報告

〈令和２年度 塩田ホーム各委員会活動報告〉

【福祉用具管理運用委員会】

開催実績 (回数)	R 2/4/21 R 2/5/19 R 2/6/16 R 2/7/20 R 2/8/17 R 2/9/15 R 2/10/20 R 2/11/17 R 2/12/15 R 3/1/19 R 3/2/16 R 3/3/16
今年度委員会での 協議・活動内容	・ 指針見直し ４月 ・ 福祉用具、褥瘡委員会合同勉強会開催 １１月６日 １３日 ２７日 ３回に渡って、機能訓練指導員を講師に、移乗用ボード使用した移乗の方法の実践。 エアマットを使用した除圧の方法、当施設にあるマットの種類等を勉強しました。 ・ 相模原ななほし様による車椅子修理、清掃 ８０台 今年度より相模原ななほし様に車椅子の修理や、清掃を委託しました。 職員では直せないブレーキ壊れを直して頂いたり、修理は出来ないという判断を一年かけて行って頂きました。 ・ 福祉用具の管理、修理 全体的にベットリモコンの故障が多くありました。どれもベットと一緒に付属したものであり、１０年たっているので、今後も故障が続くと思われます。
次年度に向けて	・ 福祉用具は様々所に置いてある現状も踏まえて来年度初頭に現状の把握も含めて大規模な車椅子倉庫等大掃除を実施する。 ・ ななほし車椅子修理、清掃は継続してお願いします。 ・ より褥瘡委員と密接に連携し、適切にエアマットが使用出来る様に努める。

【看取り介護向上委員会】

開催実績 (回数)	6回(第3火曜日開催) R2.4/21 6/16 8/18 10/20 R3.1/19 3/16
今年度委員会での 協議・活動内容	看取りの指針見直し・変更 委員会メンバー役割分担確認 研修 ＜看取りケアの実施と評価＞ 4月 本館2名 新館2名 胃ろう造設後、ホームでの看取り対応となったケースあり。 5月 本館2名 新館0名 6月 本館1名 新館3名 7月 本館1名 新館0名 8月 本館0名 新館0名 9月 本館3名 新館0名 10月 本館1名 新館2名 ショートステイ中より看取り検討していたケースあり。 11月 本館2名 新館0名 12月 本館2名 新館1名 延命希望から、ホームでの看取りを希望されたケースあり 1月 本館4名 新館1名 新型コロナ感染後、入院先にて永眠のケースあり。 2月 本館1名 新館1名 3月 本館1名 新館0名 看取り期に対する希望確認書検討・作成
次年度に向けて	指針の改善 看取り期に対する希望確認書を使った本人・家族の意思確認充実 委員会での看取りケアの評価・改善の継続 加算算定に向けての取り組み強化 内部研修の実施 他職種による看取りカンファレンスの充実

【身体拘束廃止及び権利擁護委員会】

開催実績 (回数)	毎月第 2 水曜日 R2.4/9 5/12 6/10 7/8 8/12 9/9 10/14 11/11 12/9 R3.1/13 2/10 3/10
今年度委員会での 協議・活動内容	各部署、委員会メンバーと日頃の様子や身体拘束・虐待に繋がらないよう周知、報告等行いう。 6 月身体拘束廃止・指針勉強会 各ユニット・グループ部署別にて実施。 12 月自己点検シート配布・集計 3 月高齢者虐待・権利擁護勉強会 各ユニット・グループ部署別にて実施。
次年度に向けて	コロナ渦の中、ご利用者様・職員もストレスが溜まっている中虐待に繋がらないよう、ご利用者の自尊心を傷つける事ないよう権利擁護も守って行く。 身体拘束廃止・指針 自己点検シート配布 高齢者虐待・権利擁護 実施して行く。

【施設行事委員会】

開催実績 (回数)	第3週目の金曜日（行事によって変更あり） R2.5/14 6/4.18 7/2.16 8/13.27 9/3.24 10/15 11/19 12/17 2/26 3/19 計14回実施
今年度委員会での 協議・活動内容	コロナ禍によりこれまでの恒例施設行事の見直し 例年より規模の縮小「今、私たちの出来る事」による催しの実施 4月委員会中止 5月地域懇談会の中止 6月地域老人会カラオケ大会の中止 7月秋祭り飾りつけ作成開始 8月秋祭り施設内飾りつけ開始 9月秋祭り実施 / 振り返り 12月餅つき大会実施 / 振り返り 3月家族交流会中止 3月ねぎらいカフェ実施 / 年度の振り返り
次年度に向けて	その年に合った施設行事を安全、安心の実施。 ご利用者ファーストに添って楽しみの提供をおこなって行く。

【防災対策委員会】

開催実績 (回数)	R2 年 4/8, 6/3, 7/1, 8/5, 9/2, 10/7、11/4, 12/3, R3 年 2/3, 3/3 計 9 回実施（毎月第一水曜日実施、5 月、1 月はコロナにより開催中止）
今年度委員会での 協議・活動内容	・年 2 回の避難訓練実施に向けての取り組みと各部署での防災への意識づけ活動 4 月 各部署の緊急時の連絡方法の確認・火元責任者の確認 6 月 各部署の緊急連絡網の確認結果・ハザードマップの確認 7 月 6 月に起きた計画的な停電での問題事項の確認・9 月実施の避難訓練の確認 8 月 9 月本館避難訓練予定⇒10 月実施へ延期打合せ・12 月新館避難訓練予定打合せ 9 月 10 月避難訓練実施の最終打合せ・消防訓練通知書提出 10 月 本館避難訓練実施・反省 11 月 新館避難訓練実施の最終打合せ・消防訓練通知書提出 12 月 新館避難訓練実施・反省 2 月 火災時マニュアル作成の打合せ 3 月 火災時マニュアル・通報マニュアル作成の打合せ・今年度の反省
次年度に向けて	・火元責任者が年度により変更となるので、最新版の作成 ・火災時マニュアルが完成しなかったなので、次年度完成を目指す ・通報マニュアルが完成しなかったなので、次年度完成を目指す ・年 2 回の避難訓練を今年度の反省を活かしてより良い実施を目指す

【労働衛生委員会】

開催実績 (回数)	R2.4.23 R2.5.28 R2.6.25 R2.7.23 R2.8.27 R2.9.22 R2.10.26 R2.11.19 R2.12.17 R3.1.14 R3.2.18 R3.3.25
今年度委員会での 協議・活動内容	職員健康診断、産業医による健康診断の実施。 身上確認、ストレスチェックの実施。 産業医来所 R2.5.11 R2.10.26 健康なカラダづくりのガイドブックの作成と配布 感染対策についての確認 傷病者 0 名
次年度に向けて	健康診断、健康相談、身上確認、ストレスチェックの実施継続。 職員のストレス軽減のための活動

【感染対策委員会】

開催実績 (回数)	R2.4.8 R2.7.7 R2.10.6 R3.3.2 臨時 R2.5.26 R2.6.30 R2.7.21 R2.8.18 R2.9.1 R2.11.17 R2.12.28 R3.1.12 R3.2.2 R3.3.24
今年度委員会での 協議・活動内容	指針見直し・マニュアル見直し 4月 感染症発生報告・感染症対応者リスト追加 結核検診 利用者・職員 7月 結核感染者0人 食中毒対策研修「夏の季節の感染症」7月 コロナウィルス感染症の研修参加と予防対策・発生時マニュアル作成 新型コロナ発生時対応、拡散防止 インフルエンザ・ノロウイルス予防対策 (室温・湿度管理、手洗い・うがい励行、予防接種、環境整備(消毒) 面会者管理 体温測定機器、パーテーションの購入、環境アルコール消毒や手指消毒 の徹底) 感染症についての勉強会
次年度に向けて	新型コロナワクチン予防接種実施 インフルエンザワクチン接種 肺炎球菌ワクチン 感染・食中毒防止対策勉強会 感染症発生管理強化 感染症マニュアルの見直し 感染症予防対策の啓蒙

【褥瘡対策委員会】

開催実績 (回数)	R2.4.7 R2.7.6 R2.10.6 R3.1.12 R3.3.2
今年度委員会での 協議・活動内容	褥瘡マニュアルと指針の見直し 委員会メンバーの役割分担決め 褥瘡高リスク者の確認と今後の対策 勉強会、研修について準備・検討 オムツの交換時間等ケア評価
次年度に向けて	勉強会、研修 褥瘡用福祉用具の有効活用継続 看取り対象者のスキンケアに力を入れていく 難治皮膚トラブル者へのケア評価の継続

【喀痰吸引取扱対策委員会】

開催実績 (回数)	R2.4.8 R2.7.7 R2.10.6 R3.3.2
今年度委員会での 協議・活動内容	胃瘻・吸引のマニュアルと指針の見直し 変更なし 委員会メンバーの役割分担決め 胃瘻・吸引研修修了者の確認・申請 2号・4号研修修了者の実務研修 0名 胃瘻・吸引対象者の計画書・指示書・同意書の作成・管理 ヒヤリ・ハット報告、アクシデント報告案件の分析・対応策検討・評価 1件 勉強会 救急対応（看取り委員会と合同）4月 感染症発生時の胃瘻・吸引管理についての検討
次年度に向けて	2号研修修了者・実務研修修了者の実施研修受け入れ継続 胃瘻・吸引技術、マニュアルの啓蒙 ヒヤリ・ハット報告、アクシデント報告の減少への取り組み 胃瘻・吸引対象者の計画書・指示書・同意書の作成・管理継続 講習会 感染症の方の胃瘻・吸引対応

【事故対策委員会】

開催実績 (回数)	R 2/4/21 R 2/5/19 R 2/6/16 R 2/7/20 R 2/8/17 R 2/9/15 R 2/10/20 R 2/11/17 R 2/12/15 R 3/1/19 R 3/2/16 R 3/3/16
今年度委員会での 協議・活動内容	・ 指針見直し ・ 毎月会議にて重大事故の共有。 ・ R2年7月 夜間事故想定 施設内研修実施。 各ユニットにて夜間事故が起きた事を想定し、外部への電話のかけた方や、酸素ボンベの使用方法、AEDの場所等を確認し、特にAEDの場所は変わっていたので、勉強になったという声が多くありました。 ・ R3年2月 誤薬勉強会 施設内研修 コロナ過ということもあり、3人の職員が作成して頂いた資料を読んで頂くという勉強会でしたが、実際の薬の副作用や、裁判事例もあり、知らない事や、より深い勉強になったという意見を頂きました。
次年度に向けて	よりペーパーレス化を推進し、無駄なコピーを無くし、原本の紛失やスラックを使用した共有のスピードを促進する。書式の変更もあると思われるので、押印の電子化等正式な書式で行える様に、市役所にお伺いし、書式変更に伴い、現場が混乱しないように共有に留意する。

【排泄ケア委員会】

開催実績 (回数)	R2.4.7 R2.6.2 R2.7.7 R2.8.4 R2.9.8 R2.10.6 R2.11.10 R2.12.1 R3.2.2 R3.3.2
今年度委員会での 協議・活動内容	加算取得のための取り組み。対象者を決め多職種との話し合いのもと進める。 (一時中止となる) 年度初めに排泄ケアの内部研修実施 コスト削減への取り組み
次年度に向けて	新しい加算取得に向けての取り組み 排泄用品のコスト削減 快適な排泄ケアへの取り組み

【個人情報委員会】

開催実績 (回数)	(個人情報保護についての研修) 11/24 および 11/26
今年度委員会での 協議・活動内容	今年度は研修でも実施したように、より現場目線での個人情報の運用についての知識 を深め、基本的な考え方や方法について学んでいく事とした 11/24 および 11/26 の職員研修時に約 30 分程度のスライドおよび動画使ったプレゼンテーションを行う。内容としては介護現場における「個人情報保護」について実際にこんな 事をしていないか？ 等の自己診断や電話対応時における個人情報保護についての研修 を実施した。
次年度に向けて	次年度については苦情相談と一体化しての活動なる予定ある。 それを踏まえ、引き続き個人情報運用の実践的 基礎知識や方法についての理解を深め、また苦情に対するケース報告・ 検討だけでは なく、にしたらそれを予防・防止できるのか？ という部分についても 行っていきたいと 考えている。

令和2年度
ほの里南林間事業活動報告書



社会福祉法人 大地の会

令和2年度 ほの里南林間の目指すもの

令和2年3月 1日

理 念

ご利用者に喜ばれる質の高いサービスの提供

毎日の生活の中で基本的な生活行動だけでなく楽しみや生きがいを持ちながら、あらゆる面で人としての尊厳が守られなければならない。細やかな気配りで、ご利用者様が安心して生活できるよう支援いたします。

地域社会との共助と協働

私たちの事業は、たくさんの方のご理解やご協力が不可欠です。共に助け合い、共にご利用者様や地域の方と楽しみながら行事を開催するなど、地域の困りごとや相談に対しても協力しながら解決できるようなコミュニケーションを図ってまいります。

誇りを持って働くことができる人づくり

人材育成は私たちの喫緊の課題でもあります。職員が仕事に誇りを持ち、福祉の仕事に携わるにふさわしい力を持ち合わせて、働きがいのある職場づくりをしてまいります。

事業計画の基本方針

1. 私たちは、利用者の立場にたった最高の福祉サービスを提供し、たくさんの笑顔あふれるほの里を創ります
2. 私たちは、誠実、公平な行動を信念とするほの里であり続け、利用者、社会の信頼を宝とします
3. 私たちは、健全経営に徹し、利用者・家族・職員に対し、継続的な経営責任を果たします。

全職員参加

1. 経営参画活動項目（経営参画項目）
2. 業務改善項目（超過勤務0を目指す）
3. 各部署事業計画の推進（全部署による活動）
（ラウンドによる結果検証）
4. 全体研修会の参加（管理職・一般職）
（管理者は、管理職研修に毎回必ず参加する）
（一般職研修は、4回のうちに1回どちらかに必ず参加）
5. 朝礼の開催
（毎朝、各部署は朝礼を必ず開催すること）

各部門の整備・充実

① 入所部門（ベッド稼働率前年度比UP 135%）短期入所含む

（各セッション別月間目標）

従来型） 29.6床 / 稼働 平均11,328千円 / 日当円
12,600円
ユニット型） 68.8床 / 稼働 平均30,942千円 / 日当円
14,800円
全体） 98.4床 / 稼働 平均42,270千円 / 日当円
13,700円

・平均介護度 要介護4

（重点項目）

1. 日常生活加算を維持しつつ稼働率を98%以上を維持する
2. 異常兆候の早期発見を行い入院を最小限に抑える

② 短期入所部門

（各セッション別月間目標）

従来型） 9床 / 稼働 2,937千円 / 日当円 11,300円
ユニット型） 9.1床 / 稼働 3,998千円 / 日当円 14,500円
全体） 18.1床 / 稼働 6,935千円 / 日当円 12,900円

・平均介護度 要介護3.5

（重点項目）

1. 稼働率を上昇し、平均90%を達成する
2. 午後入所・午前退所の確立
3. 空床ベット活用の実施キャンセル待ち利用者の強化

- ③ 施設内感染対策防止対策及び
安全管理体制の強化・継続教育の実施

- ④ 地域啓蒙活動への取組開始
自治会・市役所等協定の締結や連携

<社会福祉法人大地の会ほの里南林間 令和2年度の主な取り組みの成果>

1、全職員参加項目

- ① 経営参加活動項目
平均 96%以上を目指す
- ② 業務改善項目
超過勤務 0
- ③ 各部署事業計画の推進
- ④ 全体研修の参加
- ⑤ 朝礼の開催

活動成果

- ① ユニット1年間平均稼働 95%平均介護度 3.9、従来型 1年間平均 98.8%平均介護度 4.1、SSユニットの1年間平均稼働 67%、SSユニット3、SS従来型1年間平均稼働 54.6%SS従来型の平均介護度 3.3の実績であった。
入所については従来型は順調に入所を伸ばしていき、98.8%稼働を推移することができた。ユニットについては12月までは96.5%を推移していたが、1月より緊急事態宣言と職員のコロナウィルス感染による風評により大きく稼働を減らし95%稼働にとどまった。
SSについてはユニットおよび従来型も稼働率の向上に苦しみ、ユニット 67.7%、従来型 54.6%となっている。原因としてはコロナウィルスにより施設利用の恐怖と風評被害、家族の外出をしないことによりレスパイト利用者の減少があげられる。
- ② 超過勤務0を目指すを掲げたが、離職者令和2年度で27名の入職があり23名の退職者がいた離職率は23%新規入所施設としては1年目離職率26%2年目23パーセントと30%以下に抑えることができたが職員のバランスによるユニットの異動や入職者の教育等により残業の申請は平均10時間程度でている。職員の安定と職員のレベルアップ仕事の効率化等を重点に置く必要がある
- ③ 各部署の事業計画の推進
令和2年度の事業計画を作成させたがユニット間でのバラつき事業計画の推進が思う様に進んでいない今年度も作成を促し、目標や自己研鑽に重点を置いていく
- ④ コロナウィルスの影響により全体としての研修よりも委員会を中心とした勉強会を実施。
リーダー研修として24時間シートとケアプランの勉強会を実施した
- ⑤ 朝礼の開催については個々のフロアーにて継続的に実践できている今後も継続的に実施していく

2、各部門の整備・充実

- ① 入所部門
 - ・日常生活加算を維持しつつ稼働率98%以上を維持する

- ・異常兆候の早期発見を行い入院を最小限に抑える

活動成果

ユニット型については95%で98%に届かなかった。しかし異常兆候の早期発見として積極的な受診の判断や対応により年間入院数は10名。当施設での死亡を8名と少ない人数で対応できた。しかしコロナウィルス感染者が出たことによる風評により1月・2月・3月の新規入所者対応等に後れ生じたのが原因でもあった。

従来型に関しては目標の98%を達成することができた。30名少ないのもあるが年間退所人数が3名で入院2名と死亡1名と適切なケアが安定をもたらしたと考える

② 短期入所部門

- ・稼働率をい上昇し、平均90%を達成する
- ・午後入所・午前退所の確立
- ・空床ベット活用の実施キャンセル待ち利用者の強化

活動成果

今年の大きな課題となるSSユニット年間平均67%、従来型54.6%と目標値を大幅に低下している状況であった。原因としてはコロナウィルス感染の風評や家族の旅行等自粛によりレスパイト利用者が大幅に減っていること、低下時に営業等常に受け身になっている相談員の積極的なアプローチ不足があると考ええる。大和市のSS連絡協議会の平均値は100%を超えてるとの情報もあるため必要なアプローチ方法やロングSSの推奨等安定したSSベットコントロールの確立が今年の目標になると考える

3、施設内感染対策防止及び安全管理対策の強化・継続教育の実施

(活動成果)

施設内感染対策

継続的に新型コロナウイルス対応として面会制限や手洗い・うがい・マスクの徹底を促し、対策を行っている詳しくは感染対策委員会参照

2月に職員1名の感染が確認され、家庭内クラスターが原因だった為全利用者及び職員に対してPCR検

査を実施したが陰性と蔓延することはなく終息できた

安全管理対策の強化

開設当初より施設内防犯カメラを9か所設置し、365日体制の事務所職員出勤体制により不審者等防犯体制の整備は順調である。また非常災害については2回の避難訓練を実施したがコロナもあり実践に近い状態で行うには密に出来ない為環境が難しい状況だった。

今後も継続的に訓練や備蓄等の増加を行い、防犯や災害に対処できる体制を整備していく

4、地域啓蒙活動への取り組み

今年はコロナウィルスにより地域啓蒙活動は実施しなかった

各委員会活動報告

〈令和2年度 ほの里南林間 各委員会活動報告〉

【 給食委員会 】

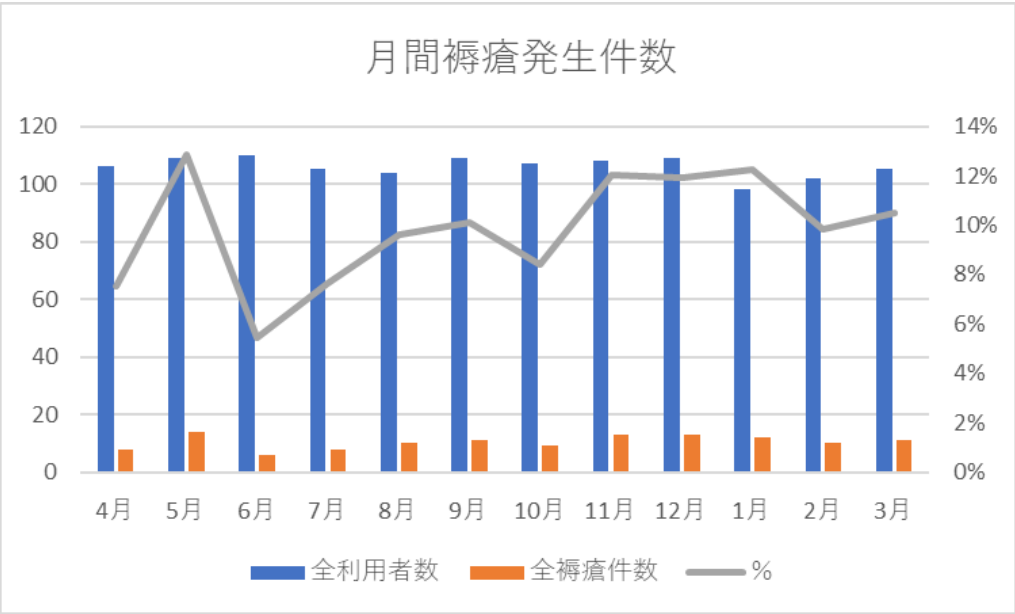
開催実績	12月4日 2月5日
今年度委員会での 協議・活動内容	・入所者の提供食事内容の確認 ・行事食についての打ち合わせ ・食器など厨房物品の取り扱いに関する周知

次年度に向けて	・嗜好調査の実施 ・クックチルシステムを利用した食事提供を行っているため、利用者様・現場スタッフの意見を基に情報交換を行い、ニーズに合った、より良い食事が提供できるよう努めていく。

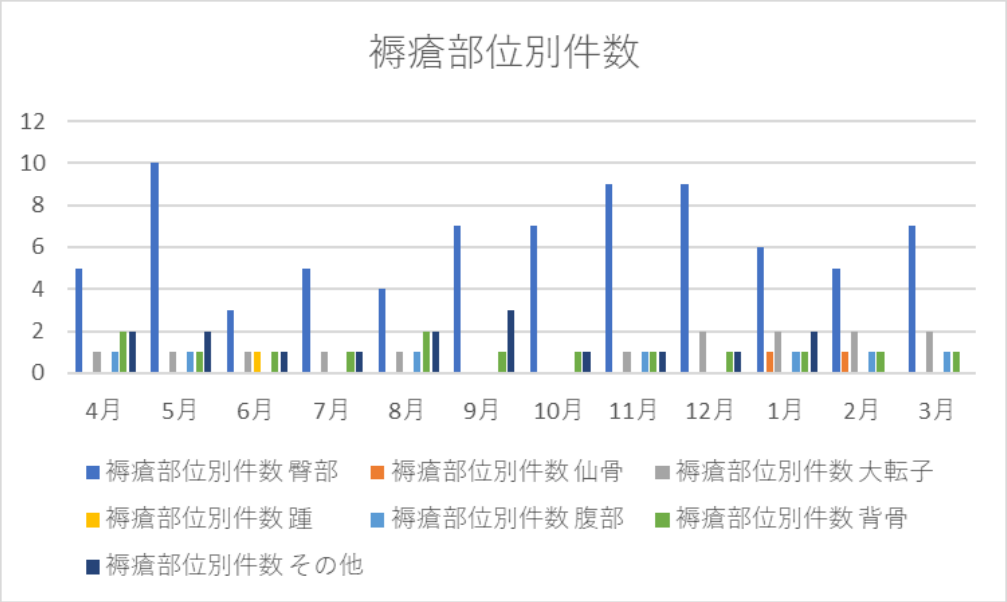
【褥瘡委員会】

開催実績	1 回/月 第一金曜日 14:10～15:00
今年度委員会 での 協議・活動内容	・1 回/月 褥瘡発生率を明記した一覧表を各ユニットへ配布 自ユニットの褥瘡発生者のみえる化を行った ・褥瘡発生者から推測される施設全体やユニットでの傾向を 委員会メンバーへ伝達し、毎月の目標が達成できるよう周 知する時間に充てた。 ・委員会メンバー全員がオムツを装着し、オムツ内失禁によ

	るムレを体験する学習会を開催した。 ・施設内で発生している褥瘡の大多数が、臀部に発生する褥瘡であることが明らかになっているため、座り直しの体験型研修を実施した →利用者の思いに寄り添い、褥瘡予防、スキンケア予防の重要性に気が付くことができるよう、それぞれの感じたこと、課題をディスカッション形式で共有、振り返る時間を作った。 ・1回/月の保湿剤（プロペト）の補充を委員会までに、介護職が自主的に申請する決まりを作った。 ・ポジショニングや体位変換の方法が、ユニット職員間での周知、継続ケアができるよう、個別にて対応し、座りかたのポスター、ポジショニング方法のポスターを作成した。褥瘡が治癒するまでの間は、リーダーと情報収集、ケア方法の提案をしながら、定期的なフォローをした。 ・介護職員対象とした、3回/年の職員研修を開催した。
次年度に向けて	・褥瘡予防ケアの重要性を委員会メンバーだけではなく、全職員へ周知できるよう、学習会や体験型の研修などを実施し、予防ケア推進活動を行っていく。 ・全身の乾燥予防に努めるため、委員会メンバーによる保湿剤の在庫管理、補充は継続とする。 ・褥瘡発生率を一覧にすることは継続して実施する。 ・褥瘡発生を繰り返す利用者が決まってきているため、褥瘡予防ケアのための個別ラウンドを実施して、利用者にあったケアをユニット職員と話し合っていく。 ・褥瘡委員会メンバーが、ユニット内の利用者について考え、予防ケアを実施することができるよう、施設内ラウンドをしながら、個別ケアと一緒に検討する時間を作る。 ・看護職の褥瘡ケアに対する知識の向上のため、学習会を開催する。 ・今年度の褥瘡発生件数（資料1参照）は、全体の10%程度で経過している。褥瘡部位に関しては、臀部に多く発生していることから、来年度も臀部の褥瘡予防ケアを推進していく必要がある。



資料2



【 ユニットケア推進委員会 】

開催実績	4/14、5/12、6/9、7/14、8/11、9/8、10/13、11/10、12/8、1/12、2/9、3/9
今年度委員会での協議・活動内容	●本年度より構成員の編成を役職者と各専門職とした ・看護介護部長 ・医務室長 ・管理栄養士 ・機能訓練指導員

	・介護リーダー ・生活相談員 ・施設ケアマネジャー ●活動成果 ・ワンデイシートのほの里基準を確立し、施設全体に普及 ・ワンデイ見直し～ユニット会議～ケアプラン作成～担当者会議という一連の流れを確立した ・記録の統一性を計り手順書の作成 ・設えの見直し、改善（フロアによって差があった） ・ケアプラン評価の毎月実施の決定 ・入所判定会議 ・居室担当の役割見直し、手順書の作成 ・統一したケアのため各手順書の作成 → 途中より教育委員会へ移行 ●課題 ・各ユニットへの課題の提出期限が守られていない ・ユニット毎に組みの差が大きい ・よりユニットケアをしていくにはどうしたら良いか？という議論があり まじりできなかった
次年度に向けて	今年度でワンデイシート、記録、のほの里ルールが確立され、今後も微細な変更点は想定されるも、大きな柱が出来た為、それほど課題はないように思える。 次年度からは、より『ほの里のめざす理想のユニットケア』を行うためにはどうしたら良いかという議論に時間を費やせると期待できる

【感染対策委員会】

開催実績	1 回/月 第 1 火曜日 14:15～14:45
今年度委員会での協議・活動内容	【研修】 2020 年 5, 11 月新入職者研修（標準予防策） 8～11 月嘔吐物・排泄物の処理について（演習） 【委員会】 4/7 ・感染対策委員会 年間と月毎の活動目標(案)の検討～承認 ・新型コロナウイルス対策～職員は勤務前に体温測定 37.5 以上の場合は出勤せず上司に連絡、3 密を避ける行動を継続してください。手荒れの問題については、ハンドクリームなどでケアしてください。 5/5 ・政府から「新しい生活様式」が出された。各ユニットで情報共有をお願いします。

・年 2 回以上の研修 6 月 2, 17, 30 日に同じ内容で行う。個人防護具の着脱について、委員会のメンバーが実演する予定。

・段ボール箱の保管について、段ボール箱は虫がついてきたりすることが多く不潔ですので取り扱いに十分注意してください。

6/2

・昨日から面会開始。1 時間に 4 家族まで(1 家族 2 名まで)事前予約。入設時に検温、アルコール消毒実施。面会時は利用者もマスク着用、ユニットへ戻る時にアルコール消毒を行う。面会后、触れた家具等アルコール消毒を行う。

7/7

・新型コロナウイルス感染症が発生した場合の初期対応について、たたき台を示し委員会メンバーから意見を聞き修正する。

・延食が常温のまま放置されていることがある。延食 2 時間は冷蔵庫保管が原則。利用者家族の持ち込みで冷蔵庫がいっぱいで入らない現実がある。持ち込みを 1 週間以内に食べられる量にするよう家族に繰り返し説明する。

8/7

・感染研修の不参加者へ小テストを実施

・熱中症予防×コロナ感染防止について(配布)

・新型コロナウイルス感染症 施設消毒について、市からの配布物を委員会メンバーで読み合わせする。

・利用者の面会について、緊急事態宣言などがなければ継続の予定

・コロナ感染時のガウンやフェースシールドの準備はあるのか、市や県から届いたものが 50 組位はある。

9/1

・インフルエンザワクチンについて、昨年と同じ要綱で 10 月実施予定。

・感染研修「嘔吐物の処理について」各階ごとに、委員会メンバーが計画して 11 月 3 日までに研修を行う。事前の演習は 10 月 6 日委員会時に行う。

10/6

・感染研修「嘔吐物の処理について」の方法～委員会メンバー 2 名が展示する。他のメンバーも全員が演習を行い、展示できるようにする。

11/3

・院内ラウンド～昨年の指導監査での事項を踏まえて院内ラウンドを行い、自部署の感染対策に活かす。

12/1

・新型コロナウイルス感染症が拡大している状況のため、できるだけことは行う。

・3 密を避ける、手洗い、手指消毒、複数人で触れる(物品・器材)の消毒

・利用者の食事前の手指消毒

1/5

・1 月 7 日緊急事態宣言となり、面会中止とする。

・職員は出勤前に検温を行い、発熱時は出勤せず、上司に連絡する

・家族に発熱者が出た場合は、出勤不可(感染状況により変わることがある)

2/2

・県から「内の病床がひっ迫していることから、現在感染者の病状に応じて、当該

	施設での療養をお願いしているところです。」お知らせが届いた。 ・当施設では「新型コロナウイルス感染症とは」発生時の初期対応に沿って行動する。 3/2 ・2/5 職員 1 名新型コロナウイルス感染症 陽性となった。 ・反省点 正しい情報が伝わらなかった。ケアラボの申し送りで連絡したが、休みの方への連絡のお願いをしていなかったため、後からうわさなどで聞くことになり、不安にさせてしまった。 結果については、全員に伝わるようにリーダーにも連絡し速やかに伝えることができた。 ・ユニットを移動することを怖がったり、誰がコロナ陽性なのかと聞いてくる職員もいた。施設はクラスターにならないことをベストに考え行動している。先の見えないことは誰でも不安になる。しかし、有事だからこそ、不安に押しつぶされないよう各自が行動してほしい。
次年度に向けて	次年度の年間、月間 活動目標は別紙参照

【看取りケア 委員会】

開催実績	4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、8月14日、 9月11日、10月9日、11月13日、12月11日、 1月15日、2月11日、3月12日
今年度委員会での 協議・活動内容	看取りケアマニュアルの見直し・改定・補足マニュアル作成。 医師の見解書作成。 体重減少率の自動入力表の作成。 毎月の体重減少や、食事摂取量低下、活動量低下などをもとにした、看取りケアの可能性のある利用者のピックアップ方法を検討、実施。 ピックアップ者の報告、話し合い。 コロナ禍での看取りケア時の家族対応について検討、実施。 看取りケア対象者についての報告。 看取りケア後の職員に対してのアンケート作成、実施、集計、発表。 看取った際の送り出し方法の改善、実施

次年度に向けて	ピックアップ者についてのチェックポイントの検討 看取りケアのケアプラン内容についてケアマネージャーとの連携 アンケート対象者、内容の見直し、改善、実施 アンケートを次のケアにどのように生かしていくかの検討 家族へのアンケートの検討

【教育委員会】

開催実績	4月16日 5月21日 6月18日 7月16日 8月20日 9月17日 11月19日 12月17日 2月18日 3月18日
今年度委員会での 協議・活動内容	協議内容（詳細は各議事録参照） 【委員会】 倫理綱領作成 新人教育プログラムに基づいたチェックシートの作成 各ケア手順書作成 【研修】 新人研修 ユニットケア研修

次年度に向けて	・次年度の職員研修について内容を検討 ・中堅職員の育成についてどのように行うか検討

【施設活動委員会】

開催実績	4/28・5/26・6/23・7/28（牛乳パック写真立て作り） 8/25・9/22（ほの里秋祭り）11/24（牛乳パック写真立て作り） 12/22・1/26・2/23・3/23（花見準備）
今年度委員会での 協議・活動内容	① コロナウイルス感染対策期間で利用者への楽しみをどのように提供していくか。 （１）コロナウイルスの感染状況を確認しながら、外部のボランティア等の派遣はせずに施設内で出来ることを感染防止対策を行いながら行事を行う。 ・ 7月行事牛乳パック写真立て・七夕飾り作り ・ 9月行事秋祭り実施 ・ 11月行事写真立て ・ 12月行事クリスマス実施 ・ 令和3年3月行事 花見実施 （２）日々のレクリエーションを充実できるように施設活動委員会から働きかける。 ② 職員のレクへの意識付けを行っていく （１）各フロアで季節に合わせた飾りつけなど必要な物品の提供など

	行う。 (2) 人員状況なども相談しながら援助が必要な場合には協力する。
次年度に向けて	① コロナウイルスの感染対策期間でも行える楽しみの提供。 ② 日々のレクリエーションの充実

【排泄委員会】

開催実績	毎月1回 第四金曜日 14:10～14:50 開催
今年度委員会での 協議・活動内容	協議 ・コスト意識の定着を図る。 ・排泄アセスメントの随時見直し。 ・在庫管理の方法について。 ・排泄問題者の検討。 活動内容 ・アセスメントに基づくオムツ選定の推進。 ・オムツの当て方研修（コロナの影響で一回のみの開催） ・ご利用者の使用パットの随時更新

次年度に向けて	・光洋による研修を実施する（コロナが収束し次第） ・ユニット内での排泄レクチャーを排泄委員が中心となっていく。 ・半年に一回（4・9月）の棚卸の実施。 ・使用パットの見直しを随時発信していく。

【防災・防犯委員会】

開催実績	令和2年 4月18日・6月19日・8月21日・10月16日・12月18日 令和3年 2月28日 避難訓練実績 令和2年10月16日（日中訓練） 令和3年2月28日（夜間想定訓練）
今年度委員会での協議・活動内容	年2回の避難訓練の実施。 ⇒消火訓練、避難訓練⇒日中、夜間想定（避難経路を設定） ・非常口は非常時にオートで開く（鍵なし）⇒再度確認する。 ・備蓄庫⇒パブリックスペースの奥、スタッフルーム内 150名×3日分に備蓄予定。 ★ほの里ルール⇒震度5強以上で職員招集（自身の身の安全、家族優先） 避難訓練日程等 ・10月16日（金）に日中帯を想定した全館での避難訓練を実施する。 火元の設定は2階から出火を想定する。 ・2月28日（日）に夜間帯を想定した全館での避難訓練を実施する 火元の設定は3階から出火を想定する 【台風等災害時の問題について】 大型台風直撃 ・停電になった場合：酸素濃縮器を使用している方の非常用電源は1F⇒

	エレベーター前、2F・3Fのステーションにある為、居室からの延長コードが必要となる。 ・ヘルメットの準備が必要。 ・ラジオは各ユニットにある白いラジカセを使う（電池が必要） ・雨漏り、窓ガラスが割れた時の対策が必要。 （空いている居室に泊まったが、今後満床になった場合はどうするのか？） ・備蓄食料品の数が足りない現在3日分確保。 ・1Fに本部を置く。PHSが使えないので1Fに報告に行く。 連絡手段の検討 →現時点では医務の PHS のみを使用できる。コラボ内のプロフィールの見直し及び更新。 ほの里の見取り図を基に消火器、消火栓の場所を確認する。
次年度に向けて	開設2年目で年二回の訓練と初めての夜間想定訓練を実施した。反省点もあったが繰り返していく事でより情報を周知し正確な訓練の実施をしていきたい。 消防と連携を取った上で、見守りの元での訓練を実施していきたい

【眠りスキャン委員会】

開催実績	令和2年 5月15日・7月17日・9月18日・11月20日・12月18日 令和3年 1月22日・3月19日 ・眠りスキャン業者を呼んでの説明会実施(9/18)
今年度委員会での 協議・活動内容	第一回・二回 眠りスキャンをどのように使用していけばよいか 使用してのユニットからの疑問点・問題点・相談したい点 が挙げ、まとめていった 第三回 業者を呼び事例を見ながらの説明会を実施。まとめた点を業者に質問し意見 交換を行った。また次回からの課題として事例の様なスキャンの活用をしてい けるよう、各ユニットで議題として挙げられそうな利用者をリストアップし、ユニッ トで対応を相談した結果を委員会に持ち寄る事となった。 第三回以降 議題として挙げる情報が少なく、話し合いが進む事は少なかった。 ただ少ない中で経過観察している様子をデータを印刷したものを見ながら情 報共有することはできた
次年度に向けて	委員会開設1年目で、委員会の進め方などに戸惑いもあったが、9月に業者を 呼んでの勉強会を実施し進める方向性を掴む事は出来たのではないかと。 しかし参加人数が安定せず、また次回の議題として担当者に依頼した事が当 日整わず話し合いが進まないことも多々あった為その辺りの意識をユニット担 当者が持ち、委員長・副委員長を中心に活用していければと感じる

〈令和 2 年度 ほの里南林間 各委員会活動報告〉

委員会名【 身体拘束防止委員会 】

開催実績	年 7 回（開催：第 3 火曜日 14:40～） 第 1 回 5/19、第 2 回 6/16、第 3 回 7/21、第 4 回 9/15、第 5 回 11/17 第 6 回 1/19
今年度委員会での 協議・活動内容	●身体拘束防止の意義『指針』『拘束を行うにあたっての手続き』確認 ●施設内研修の実施 ●身体拘束の現況報告 ●身体拘束と見なされるか否かの理解（グレーゾーン・不適切なケア） ●身体拘束がもたらす 3 弊害の理解と周知 ●利用者通行抑制と行動制限の理解と周知 ●構成員の追加 ●高齢者虐待防止法（5 つの虐待）理解と周知 ●委員会進行の在り方を見直し、報告書提出と重大発表形式へ変更 ●個別事例の検証 ●マニュアルの見直しと書式作成 ●全職員対象アンケート実施
次年度に向けて	別紙、年間計画に基づく

〈令和 2 年度 ほの里南林間 各委員会活動報告〉

委員会名【 事故防止委員会 】

開催実績	年 12 回（開催：第 3 火曜日 14:10～） 第 1 回 4/21、第 2 回 5/19、第 3 回 6/16、第 4 回 7/21、第 5 回 8/18 第 6 回 9/15、第 7 回 10/20、第 8 回 11/17、第 9 回 12/15、 第 10 回 1/19、第 11 回 2/16、第 12 回 3/16
今年度委員会での 協議・活動内容	●カンファレンスの必要性和家族連絡のルール化 ●事故報告書の見直しと管理方法 ●介護保険事業者用 事故報告書の扱い ●施設内研修の実施 ●相談員との早期情報共有化 ●事故発生より経過観察期間のルール化 ●マニュアルの見直し ●夜勤者間での連絡手段（限定 PHS）、夜間救急フローチャート ●ケアコラボ（プロフィール）を活用した個人情報の扱い ●事故とヒヤリハットの区別見直し ●誤薬の定義明確化（落葉の扱い含む） ●個別事例を用いた事故再発防止に向けえた取組み ●特例ケースの協議と決定 ●次年度に向けた施設内研修の取組みと担当分け ●委員会進行の在り方を見直し、報告書提出と重大発表形式へ変更 ●構成員の変更と追加、指針見直し
次年度に向けて	別紙、年間計画と年間研修計画に基づく

地域活動報告

＜令和2年度 日常生活活動成果について＞

① ボランティア活動実績

・今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、外部のボランティアの受け入れや派遣を中止せざるを得ない状況だった為、実績なし。

② 地域交流実績

・令和2年11月 ほの里南林間の自主管理公園の花壇に草花を自治会の方々と植えさせて頂きました。水やりや草刈りなども定期的に協力しながら行っています。

※地域交流についても新型コロナウイルス感染防止対策のため、施設内での受け入れや派遣を中止していたため、活発に行えなかった。

③ クラブ活動開催実績

・牛乳パック写真立て作り。(第1回 7/28・第2回 11/24)

施設活動委員会を中心に、試験的に行った。2日間で合計で30名程の利用者様に、新型コロナウイルス感染防止対策を実施の上、ご参加頂きました。完成した作品をご覧になり、笑顔になられている姿が印象的でした。現在のコロナ禍では、外部から講師を派遣することは難しいため、施設職員が対応しながら、施設内でも楽しみを提供していければと思います。